

平成19（2007）年6月8日 史跡整備等特別委員会

№. 10 灰垣委員

意見というか、要望にしておきますけれども、今、宮本委員と重複するところもありますけれども、1500年前の歴史という部分で、高槻は非常に誇るものを持っているというところから始まるわけですが、森田参事の説明の中にもありましたが、一部の人のためだけのものではないという。その人たちだけが喜ぶような、我々だけの満足で終わるような計画でないような形で考えていただきたいと。

広報活動とか啓発活動をしっかりしてもらって、当然高槻市民だけでなく、今おっしゃったように、全国にも発信できるような、そういった部分をしっかり築いていただきたいなと思っています。

私も森田参事に来ていただいて、30人ぐらいでしたけども、歴史の勉強をさせていただいたという、そういったこともありましたけども、そういったことも含めて、出前講座とかも利用していただきながら、その辺もやっていただきたいなと思っています。

教育の部分もしっかり連動していただけたらなと思っています。歴史を学びながら、1500年前の悠久を想像しながら、皆さんのお話を聞いて、心豊かな教育というような—教育長のお話もありますけれども、そういったことも絡めながら施設の整備に当たっていただきたいなと。

参事のお話にありましたけれども、箱物をつくってしまっただけというわけではないので、しっかりつくってからの継続的な整備、計画的な運営を心がけていただきたいということを申し上げておきます。

よろしく願いいたします。